

食事のリスク管理としては、誤嚥と窒息があり、特に窒息については即死亡事故に繋がりがねず日常的に交通事故よりも多発している現状があるようですが、予防することで回避できるものであることを忘れてはいけません。

介助や支援するうえで、まず、摂食において機能が低下していないか事前の情報共有が大事です。量の自己調整や摂取ペースや、もしもの時に「助けて」を伝えることができるコミュニケーション能力があるか等に気をつけること。早食いや詰込み、丸飲み等窒息リスクにつながる事には要注意です。

窒息対応については、食事中に3つの対応が重要とされています。①水分摂取(溜まったものを流す。食事の合間にとる習慣)②適量提供(一口で処理できる量や摂取ペースの調整)③見守り(目を離さない。複数での連携)です。

また、窒息時の救命処置としては、背部叩打法(はいごうだほう)・腹部突き上げ法等があります。

最後に、摂食嚥下の機能の維持について、食べる楽しみを続けるためには特別な訓練は不要です。家庭でできる簡単な取り組みを継続することがとても大事です。食事中は、①姿勢を整える(深く座る、足がつく、背中をまっすぐに)ことで、嚥下しやすくなる。②一口量の調整(適量の提供、食具の工夫、声掛け、見守り)をすることで、窒息リスクを予防する。③口の中を清潔に保つ(食後の歯磨き、うがい、口ゆすぎ)ことで、誤嚥性肺炎を予防すること等です。

食べる楽しみを損なわず、無理をせず、リスク回避を継続して安全に食べることが大切なことです。また、一人ひとりと同じではないので「個別の相談も受け付けます」とのことでした。

「嚥下機能の大切さと維持について」改めて考える貴重な学習会でした。



【会員向け学習会風景】

近畿手をつなぐ育成会連絡協議会リーダー 養成研修が開催されました

事務局長 飯塚 聡

近畿2府4県2政令市の育成会では、近畿手をつなぐ育成会連絡協議会(以下、近畿ブロック協議会)を設けており、毎年、近畿知的障がい者福祉大会(近畿大会)と近畿リーダー養成研修を開催しています。

近年では育成会に限らず、全国的にも古参の当事者組織の運営がひっ迫している状況があることから、2月5日に近畿リーダー養成研修がハートピア京都で「想いを紡ぐ育成会、これまでもそしてこれからも」をテーマに開催されました。

最初は全国手をつなぐ育成会連合会の又村常務理事より、これからも一人ひとりの想いを紡いでいこう」をテーマに基調講演があり、全国手をつなぐ育成会連合会で実施したアンケートからの分かったことについて報告がありました。(アンケート結果については、『手をつなぐ』令和8年4月号の特集「今、あらためて育成会に思いをめぐらす(仮)」内で掲載予定です。)

次に「会員のニーズに沿って変えていく活動づくり」をテーマにパネルディスカッションがありました。

まず、兵庫県手をつなぐ育成会からは、令和4年度に県内の市町の育成会に対してアンケート調査を実施し、地域が抱えている課題を把握した結果、出前講座を支援ツールとして実施している報告がありました。次に奈良県の葛城市手をつなぐ育成会からは、ご家族向けには地域の事業所見学会を、当事者向けには週末の休日における活動を実施している報告がありました。京都手をつなぐ育成会からは平日の夜や週末に青年学級での学習会やクラブ活動の報告がありました。それらに加え、大阪市手をつなぐ育成会から昨年に導入した安否確認ツールの付加機能を利用し、会員さんへの迅速な情報提供など、いざとなった時のお守りツールようにしていきたいという報告をしました。

制度やサービスが年々充実をしていく中ではありますが、ご家族の不安や迷いは無くならないことから、育成会をはじめとした当事者組織は必ず寄り添えるはずだと思います。アンケート結果や各地の報告を伺い、まだまだミスマッチが起こっているのが、活動のやり方や情報発信の仕方によっては、伸びしろがあると感じました。